貴重書

国
特別
1965

国
24
24

40.8.26
ナ306531

東西庵南北作
勝川春扇圖画
昔容取今画艸 土製太郎一代記

書肆 耳泉堂梓

序

蜘が蕗の葉ゟ落て蜂の蛆となけーをこそ。子房ハ九ヶ門よ棚窗と
つくりて。手路をめぐらし。あざせをのぞき宵ゟの奇ゟ来客きっとぐ
ざんすの土袖が咒ひ時ゟ作者倆の偶人ゟく世の中ハ蝿食蛸と
代云蜘蛛をせぐのをよ〳〵世渡ねもよと。那建の穴ゟそほり菴の
門ゟ菓とろを何で能き金ようけがねとまゟ折〳〵も耳泉堂の主
お所物の催促をもぐ菓の巣組もありしゟ一ツ乃小蜘引本のよを這ゟ
高処を関ろ本建文が怪異録の番ゟ転ありたちまち肯雑を引て。
何ゟ蜘ゟく草稿ゟ〳〵ゟ如ゟ咒一代記と願まるのを

文化十三年子の初春

東西菴南北戯ゟ

ひたちの国
安馬山の
雲龍仙

長良勝利一旗
丸川平吾一子
神太良右
土蜘太良
似峯さ云

信濃の国 財佐 大賊
玉嶌将軍標品
大銭の
遊君
小万
薛女の傘
神田菴 小知
道並み
蛇の生呂
さよ
ちよれ
衆考
池ハ
峠 雉
月見坊

○金時五良好門（きんときごろうよしかど）

江戸の春

竹の笹司が娘（たけのささしがむすめ）

○おさの

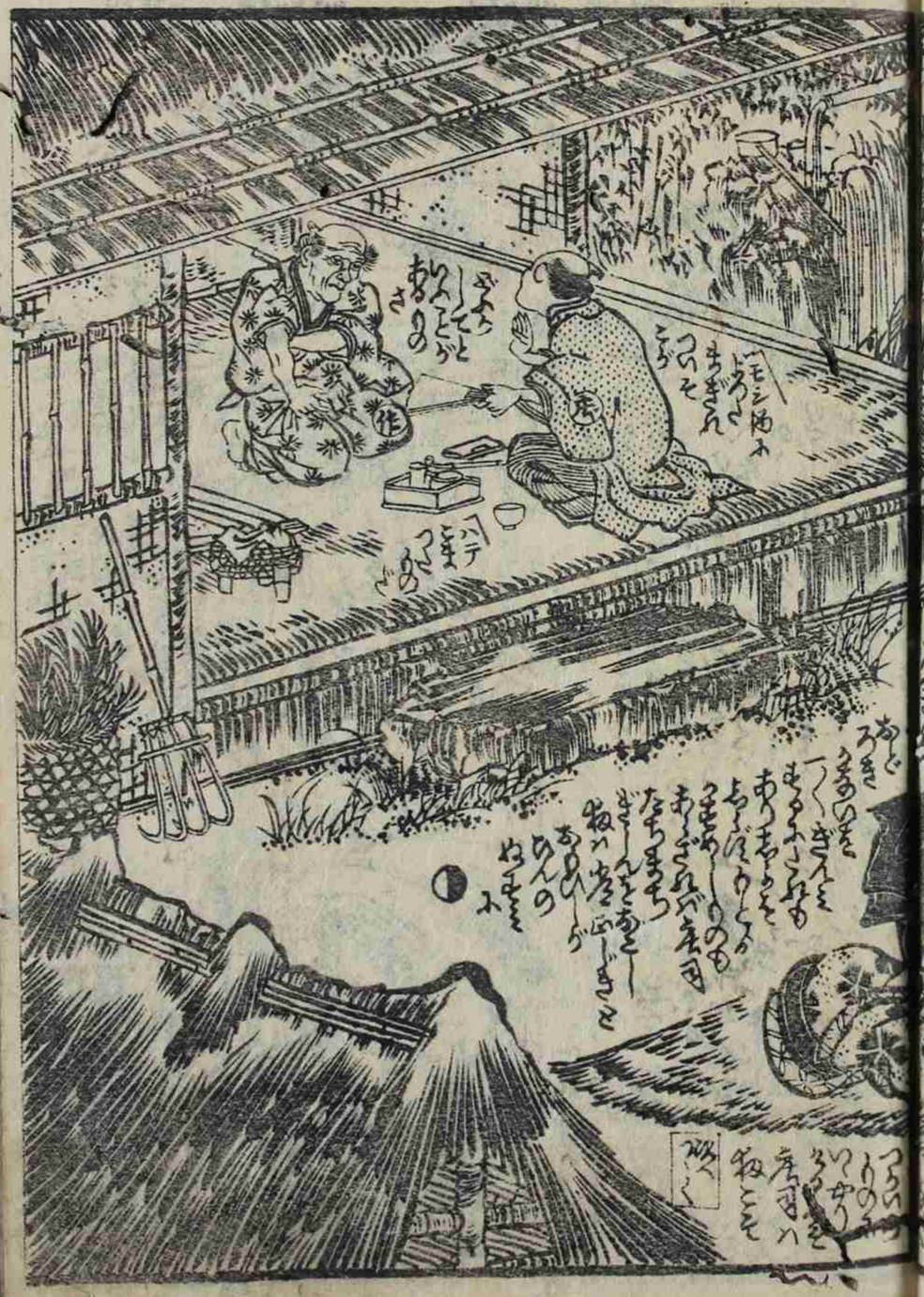
雲蠶銘曰

本来無東
西何要看
南北迷故
三界城悟
故十方空
無極大極
寂滅無為

美濃の國の住人長良の勝利おのれ
このそうがうん今勝利が長男月茅丸民間ふそだろと父ぞも
かろとーが並勇をとらけつき足利ふろく
ろやとこくふかろとーぐこちろる兎川平吾る氏といる者美の川のそうふ
世をさけのおこしがさび月よーもがらんぐうとつろくがろふ今天下一つとう
足利のおろくふるびさおぞくるがあるかとも也ちるふる名服ちろのかりひ
たちあるとも蝙蝠が斧をろうてとろうろ
ろつきふろ毎をろんぐんのをとるうけ引
さまろぐるも不忠ふ似られぶよーやろ人ふ勢ろきろ木ふおろんをさくろをとも
せんぐをと見そぐけをんがあるぐくぐとふいんぐうのかさんをあーね時くれ
本吾ハ二人の子あり、おまはさらまて申ろく鄙ようび、おろくれ二さらまて戌二ろく
とよぐろ物又はまの子ろ悩ん氏ろどる病まある史補ようのろとさを
かろくつろーねこれ女の口ようりんぐろうのろうんせんてとをおそれそあーさて
本吾ハ二人の子をぐーてまんぐくろる。筵席はおくさんえん

あーニ人のせぐれが長久をいのア、ぬがこ
がろをと名づけーニタふその老ん刀を一トろうづつ二人のせぐれふおろくはさん
なろうけうだん後ふぬぐアあふる時のろ
てニ人が寺袋みかさろ。ろぐとろーのぐ
村と二ケ西ことけ申ろ年戌二扇。そ
ろ人のいんぐうむろーくろしのち二人のせ
かろい血をぢのたへねてと呂ひろうてあり。牧ろとろく月よーも毛あうふ
瀧元山とろへる。椋井と未坂のさろ
ふーかぐのろうて四方みこち軍ぜんを入ろくーせむろふそ。長良のふ
勢何ろろうてこらくべき。つふいいんぐくむーくふーぐぐいーてうせね時ふ負治五行ん裏五月十八日也
余人ぬのくふーぐぐいーてうせね時ふ負治五行ん裏五月十八日也
○こよう十七年のぜいさくをとくーまる申ろ扇戌二郎。けうだいのそ
ふろうるあや。迄人ぜんごのぜろうんをなふふこのくまぐて六冊ろ
ぬそこのむまろんるろふ絵ぐみ思ろぬ

申


作
兵

なぐさめるものゝ
ありやなしを
ていこまつ
あまつこびとん▲

▲まつそうり
○元日のそらの
ようすをいふ

●ふとんぎ
そのむくの
ちまちふ
ありある日
元日ぶねを
めのこのい
うぶごとのまつのえんぎふとん

申

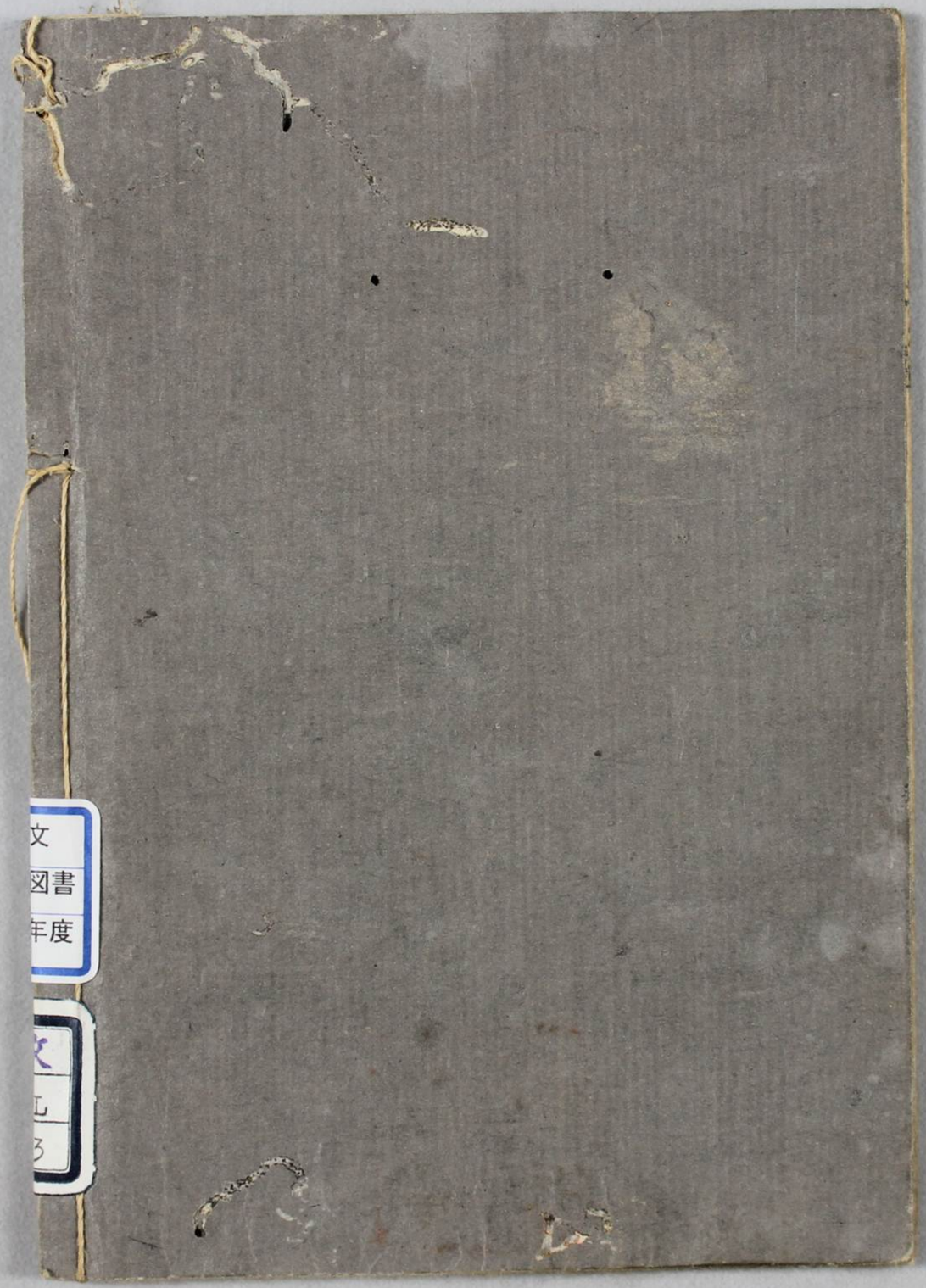
巳

国文
24L
43

巳のそー巳の巳のこくふ
うまれーしめ
いきぎもをひ
さんざものどうをこゝろして
一人をたをすことにちよこ〳〵
たゞ〳〵のやうにありがとうと
いつて徳あんいたちく〳〵ねたる
なか〳〵つきの力もてゆくことをさく〳〵
表のうちのふせいそく〳〵とようとい
いろ〳〵やうぶつくのちやだんみて矢田が
加平ものうそだらめくぐらんをみいのじ▲

▲ときたく〳〵のびみて矢田が
加平ものうそだらめくぐらんをみいのじ
生年をきく〳〵てゆくことをさく〳〵
ろうそく〳〵とようがかくをたちいで
矢田ぶかく〳〵とんざ〳〵ふく〳〵

是より後篇ノ巻へウツル


文
図書
年度